

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 65 号

2008年6月



蟹ヶ沢周辺早春花観察会

4月27日（日）に蟹ヶ沢周辺の早春花観察会を実施しました。参加者は15名でした。予報ではぐづついた天候が心配されましたが、時折日差しも射す比較的穏やかな1日となりました。

ミズナラの2次林とスギ植林地の間に拓かれた林道をゆっくり進むと、左側に広大なカラマツ植林地、右側には湿性原野が広がります。そんな中であって林道沿いではゆったりと枝を広げたブナの壮木が存在感を主張し、かつてこの一帯がブナの自然林であったことを想像させてくれます。

今回はヤナギの観察がテーマのひとつです。ヤマネコヤナギの雄花と雌花でヤナギの花の形態の違いを確認しました。沿道ではシロヤナギの雌花も咲き始めていましたが、オノエヤナギはすでに花が落ちており、花が観察できたのはかろうじて雄株1本だけでした。しかし、赤い表皮を脱皮中のミズキの新梢やテイカカズラに似たツルマサキの実生、花を着けたブナ、大きなテツカエドとトチノキの芽生えなど予期せぬ春の息吹の瞬間に遭遇することができました。

一方で林道周辺や沢沿いには空き缶やペットボトルなどが無造作に捨てられ、不愉快な光景も。全員でゴミを拾い集め観察会を終りました。美しい湿原や広葉樹の2次林と人工林や荒廃した蟹ヶ沢源流部、散乱するゴミが混在したこの一帯の光景に複雑な思いを残しながら帰路につきました。



集めたゴミ

高湯・蟹ヶ沢の早春花観察会日記

青柳 静子

ホームページを開いてみると、今回は「早春花の観察会」とある。想像しただけで、心躍るものがあった。当日、集合場所に行くといつものメンバーに再会。参加する度に思うことだが、皆パワフル！つつい自然観察なのに、人間ウオッチングをしてしまう私（笑）

今日はどんな発見があるかワクワクしながら車に便乗し、惣八郎まで移動。私は初めて訪れる場所である。途中、山道に入ると車窓から新緑に混じって若葉が赤茶色のオオヤマザクラ、花びらの色が淡いピンクのウスズミザクラ（エドヒガンザクラ）が咲いていた。じつは今日知った名前だった。車を停めて歩き出すと、雪上にカモシカの足跡を発見！歩く左手にカラマツの植林が続く。鉄道の枕木に使ったそうだ今回のポイント、3種類のヤナギの違い、特徴を教えてもらった。ループを借りて花を見た。今度見つけた時は、見る目が違うと思う。

しばらく歩くと遠くに高倉山が見え、その手前、蟹が沢には護岸工事場所。崩壊を繰り返したせいか荒涼としている。木がなくて痛々しい。湿原のところで昼食、休憩をとる。頭上を見上げるとオオタカ？私は見逃してしまった。ミズバショウの美しい湿原！傍らにはイワウチワとオウレンが咲いていた。ヤチダモの木を発見！冬芽が黒い。私もループを借りて芽の観察。休憩後ブナ林を登って行く。斜面一帯イワウチワで、すごいね～きれい～を何度も繰り返した。葉もツヤがある。尾根上にはクロベ、この辺にあるのはめずらしいそうだ。そして、大木のブナがあり、まさしくマザーツリー！キハダは樹皮に弾力があり、皮を剥ぐと鮮やかな黄色で、噛んでみるとすごく苦かった。下って湿原近くに帰った所で、雪上にサンショウウオのタマゴを発見！カエルのタマゴのようにゼラチン状のものに覆われている。何故、沼ではなく雪上なのか？タマゴから孵るまで持ち帰って観察してみたい衝動に駆られた。

ゴミ拾いと、フキノトウもちょとだけ摘みながら帰路に着く。今回はいくつもの発見がありすごく嬉しい。目に映るすべてのものはメッセージ♪こんなにすばらしい手付かずの自然をいつまでも守っていきたくと思った。

高湯・蟹ヶ沢の早春花観察会

高梨 京子

久しぶりに観察会に参加させていただき感激でした。高湯高原、松川支流の湿原まで行く。お天気も良く残雪の感触を感じながら歩く。山々の木立はやっと芽吹き始め、ほんのりと（ぼんやりと）色づき、それぞれの木々が色々に彩られ、山全体が太陽を受け、本当に嬉しそうに笑っている。葉の出ない芽吹き前のこの時期が一番好きである。

今日はヤナギの観察でバッコヤナギ、オノエヤナギ、シロヤナギを資料により説明を受ける。雌雄異株でバッコヤナギの雄花は派手で美しい。役目を終えて地面に落ち、哀れな毛虫の様に見える。雌花は地味で苞も添えて咲いている。素直に伸びたブナ林に可愛らしい花を着けたツノハシバミ、マルバマンサクに感動する。沢の湿地にミズバショウが咲き始めていた。食事の場所にイワウチワが一面に咲き、オウレンが数本あった。尾根の上は山いっぱいイワウチワが咲き誇り、色の濃いのが薄くて白っぽいのと素晴らしい眺めである。踏んで歩くので申し訳ないくらい。下からの眺めはもっと素晴らしかった。



往路のゴミ回収

帰り道、雪の上に卵塊があった。何だろう？サンショウウオかアカガエルか。黒い目玉が見えたが不明。道々にフキノトウを採りながら歩く。女性は何か採って行きたくなるもの。人の入らない素晴らしい場所。大事にして欲しい。

(編集者注:雪の上に卵を産んだ両生類は、ヤマアカガエルのようです。観察会での説明を訂正します。)

水源の森復元ボランティアと龍ヶ岳観察会

佐藤 久美子

好天のもと、第七回となる水源の森復元ボランティアに参加した。今回は、植林班と下草刈班に分かれて作業した。以前に植えた苗木も背丈程に育って、立派な木になっていた。皆の力を合わせれば、山も復元出来そうである。お昼は、草原の高台で頂く。とても気持ちがいい。淳一さんが、「牛の気持ちがわかるでしょう？」といったので、なるほどと納得する。

龍ヶ岳は、毎年同じ時期に訪れるので今回は、お花は、どんなかな？と楽しみもひとしおである。どれもこれも清楚で可憐な花たちが待っていてくれた。特にベニバナイチヤクソウは、1番の見頃で、とても美しかった。全員足止め状態となる。緑のトンネルを潜り抜ける。木々の葉が柔らかく目の前に、現れてとても間近で、観察が出来た。ショウジョウバカマの、葉は、艶々と光沢があり光っていた。

今回はブナ林を通りぬけ、もっと先の頂上を目指した。初めて訪ねる。急坂を登りきると、小さな祠が3つあった。人間が持ち上げるには、とても重かったらうと思った。清めの水に使われたと思われる水場もあった。山ノ神に何をお願いしたのだろうか？雨乞いかしら。山の神は、本当に居るのでしょうか？現在は、そこらじゅうで、恐ろしい事件ばかり起きている。もしも、山に神がいるのなら、両手を合わせてお願いしようかな。悲しい事件が、これ以上起きません様に。龍ヶ岳は、毎年変わらず緑の森で私達を迎えてくれる。自然のたくましさと美しさにいつものように、元気を貰って帰路に着いた。追伸。今年は、サンカヨウが終わっていて少し残念でした。



21世紀の超巨大環境破壊

21世紀の巨大開発を考える会 会長 織田重己

愛知県豊田市(旧下山村)と岡崎市(旧額田町)の山の中であんなにもないことが行われようとしています。トヨタ自動車(株)がテストコース、研究棟、実験棟、厚生施設等の建設を計画しているのです。テストコースは2キロの直線コース、6キロの周回路、4キロの周回路など、いくつか造る予定です。現在は環境影響調査(アセス)を実施中です。工事や買収は愛知県企業庁が行い、造成後トヨタが購入することになっています。

問題はその面積と場所です。総面積は660haで、山を切り崩して谷を埋める造成面積は410haです。2010年に着工して2020年の完成を目指していますが、過去にも短期間にこれほど大規模な開発が行われたことは無かったと思います。東京ディズニーランドとディズニーシーを合わせても100haしかないので、そのとんでもない大きさがわかるかと思えます。予定地の環境は約8割が森林で、2割が農耕地です。その森林のうち約7割が里山で、3割が植林地です。完成すると研究者だけで5000人、その他職員を合わせると6000人ほどが働く計画です。現在下山地区の人口が5500人なので、これだけの人が働くことになるとインフラの整備でもかなりの環境破壊が予想されます。経済の発展のためとはいえ、この時代にこれほどの環境破壊を計画することはとても不思議なことだと思います。

予定地には国の絶滅危惧種で生態系の頂点に立つ猛禽類のサシバ(絶滅危惧Ⅱ類)やオオタカ(順絶滅危惧)、ハチクマ(順絶滅危惧)などが多数生息しています。これらの種はテストコースができればこのエリアでは絶滅することになります。企業庁はこれら貴重種がいても計画の変更はしない見解を示しました。これも時代遅れの発言といわざるを得ません。日本ではアセスにより計画が中止や変更になることは何故かありません。また、今回相手が世界一の企業なだけに反対運動など声をあげる人はいません。地元になればなるほど声をあげづらくなります。そこでこの現実を世の中に広めるためにホームページを作りました。是非ご覧ください。

21世紀の巨大開発

<http://bio-diversity.info>

風景印の旅（2） 鎌田和子

「その日」はよくよく当てのはずれる日となりました。しかし、そこには偶然の出会いが潜んでいたのです。

私はその夜、植物図鑑でしか見たことのない「アラカシ」の殻斗をとっくりと眺め、満足感に浸っていました。その殻斗の薄いとび色の縞模様は、見慣れているシラカシの殻斗とは明らかに違う色合いをしています。が、じっと見つめていると、あれっ、シラカシかな？と思えてくるから不思議です。慌ててホントのシラカシの殻斗を手にとって見比べ、「ああ、やっぱりシラカシとは色が違う！」とほっとするのでした。美しいとび色はアカガシの殻斗によく似ているけれど、アカガシほどにはビロードのような厚みがなく、さらっとした感じがします。形にしても、アカガシはお椀のようなふくらみをもっていますが、アラカシはロートのような形です。ここまで観察して、ハッと気がついたのです。図鑑のアラカシの殻斗を見ると、ロート型ではなく、皿型に近いのです。個体差はあるにしても、アレっ???

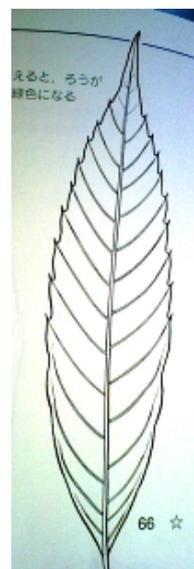
実は、磐城太田の郵便局の「風景印」に、県天然記念物のスダジイ樹林が図柄に入っていることを知り、その日、スダジイ樹林があるという「初発神社」を目指して出かけたのでした。所在地は原町市高というところで、そこは「磐城太田駅」の西だと聞いただけ。地図で確かめたりもせずに出かけてしまったので、なかなか初発神社は見つかりません。立派な鳥居を見つけ、喜んで文字を読むと「多珂神社」となっています。「初発神社」ではないけれど、取りあえずその神社に入ってみました。たいていの神社には照葉樹の大木があるはずだし、お腹もすいたので、ここでお昼にすることにしました。思った通り、参道の入り口と社務所の後ろに照葉樹の大木がありました。シラカシかな？ こんなときは殻斗が決めてになります。落ち葉に目を凝らすと、ありました、ありました。灰色ではなく、褐色の殻斗です。「わあ、アラカシ!？」嬉々として殻斗を拾いました。アカガシの殻斗に似てるけど、これはアラカシかもしれない。そうだ、葉に鋸歯があるかないかを観れば分かるのだ。どれどれ、う～ん、上のほうに鋸歯があるからアラカシに違いない！そう思ってしまったのです。アカガシの葉は全縁であることを、先日、兄嫁から送ってもらったアカガシの葉を観たばかり。だから自信がありました。そして、偶然とはいえ、アラカシを見つけたことに、ホクホクしながら帰途につきました。スダジイ樹林を見に行ったはずなのに、それがアラカシの大木に変わってしまってもかまいやしないのです。

ところが、どうもそれがアラカシではないようなのです。ならば、いったいこの殻斗は何？確認しなければならなくなったときのために、一枝頂いてきてよかったです。その枝についている葉を観てみると、鋸歯が上半分よりは少し下のほうまでついていました。つまり上から2/3くらいまで鋭い鋸歯があるのです。はて、アラカシの鋸歯は葉のどこまでついていいのかしら？調べなくちゃと思ったそのとき、ようやく「落ち葉図鑑」で確認すればいいことに気づきました。「落ち葉図鑑」にはきちんと鋸歯が記載されていました。アラカシは下2/3は全縁（→）となっています。私が手にしている葉は、上2/3に鋸歯があるのです。う～ん、それに該当するものなどあるのかしら？とページを一枚めくりました。すると、ぴったりなのがあったのです。しかも、「落ち葉図鑑」では、アラカシの葉は幅が広いですが、私の手にしている葉は細めです。なんと、それはウラジロガシのイラストとそっくりではありませんか。要するに、私が「アラカシの殻斗」と思っていたのは、本当は「ウラジロガシの殻斗」だったようです。

自分が、早とちりで、思い込みに走っていたことが可笑しくてたまりませんでした。スダジイ樹林を見ようとしてあてがはずれ、代わりにアラカシを見つけたと喜んでいたら、それもハズレだったなんて！ またもや、一枚の「風景印」が予期せぬ「ウラジロガシとの出会い」を作ってくれました。それはそのまま「照葉樹林の旅」につながることに、妙に感動する私でした。(2008. 3. 23)



アラカシ



ウラジロガシ

鹿狼山から 5 ～鹿狼山のスマレたち～ 小幡 仁子

鹿狼山には私が知っているだけで 12 種類のスマレがある。アオイスミレ、マキノスマレマルバスミレ、ヒナスミレ、エイザンスミレ、アカネスミレ、タチツボスマレ、オオタチツボスマレ、アケボノスマレ、サクラスマレ、ニオイタチツボスマレ、ツボスマレである。この他にも、葉脈がやけに赤いので、これはアカフタチツボスマレかも？と思うものもあり、見る人が見れば 12 種類を超えるだろう。

3 月下旬になれば、アオイスミレが一番に咲く。今年 2 月、瀬川さんの「カタクリ通信 102 号」にアオイスミレのスケッチがあった。08. 4. 8 の日付があったから、鹿狼山は西和賀と比べると半月ほど春が早いということか。西和賀は雪深く寒い所である。こことは一月くらいは違うかと思っていた。いつか、西和賀のカタクリは吾妻のよりも色が濃くて大きくて美しい、と聞いたことがある。鹿狼山のカタクリもなかなかのものなので、西和賀にそれを確かめに行きたいとは思いつつ、まだ実現していない。アオイスミレも何か違いがあるだろうか。

それにしても、つい 2 年ほど前は、私はスマレに関しては、白いスマレ、ピンクのスマレ、紫色のスマレくらいの分類で、色こそ違えすべてがただの「スマレ」であった。今のようにスマレの一つ一つの名前が分かり、花も葉の形も个性的に見えるようになったのは昨年からである。これは高山の会と、会員の K さんに依るところが大きい。

それで、昨年は鹿狼山のスマレ確認に勤しんだのだが、最初から全部分かったのではない。鹿狼山に登って目に焼き付けたり、写真に撮って、山溪ハンディ図鑑 6 「日本のスマレ」と照らし合わせて一つ一つ決めていった。

忘れもしない 2 年前の 4 月 29 日。いつものように鹿狼山を歩いていて、アカネスミレが登山道沿いにいっぱいあるなあ。と思って通り過ぎようとしたら、「あれっ！アカネスミレにしては葉っぱがつるつるしているし、花が大きいなあ、アカネスミレとは違うみたい」と気がついた。そして写真を撮って図鑑と合わせたら、サクラスマレだったのである。早速 K さんにも連絡して見に来ていただいた。

サクラスマレは「スマレの女王」と言われ、花の大きさは日本最「」大。スマレに興味があるなら最初に憧れる花。と書いてあった。ちなみに鹿狼山には「スマレのプリンセス」と言われるヒナスミレもある。アオイスミレは初春の初々しさがあり、アケボノスマレはうっとりするすてきな紅紫だし、エイザンスミレは全体的な姿がよいと思っている。日本のあちこちに咲いているスマレ達を見てみたいものである。



鹿狼山のサクラスマレ



鹿狼山のエイザンスミレ



鹿狼山のアケボノスマレ



鹿狼山のアオイスミレ

東北ブナ紀行 (30)

奥田 博

山形県にも多くのブナ林が点在している。特に月山周辺には多くのブナ林が残されている。月山をはじめ、湯殿山、葉山、六十里越え、鍋森、石見堂山など優れたブナを味わうことができる。月山周辺だけでもブナ林を訪れるのに何日もかかるほどだ。共通しているのは、豪雪のせいかブナの木がしっかりとしていること。豪雪に耐えてきたというよりは、豪雪で鍛えられドッシリと根を下ろしているといった風格を感じるのだ。

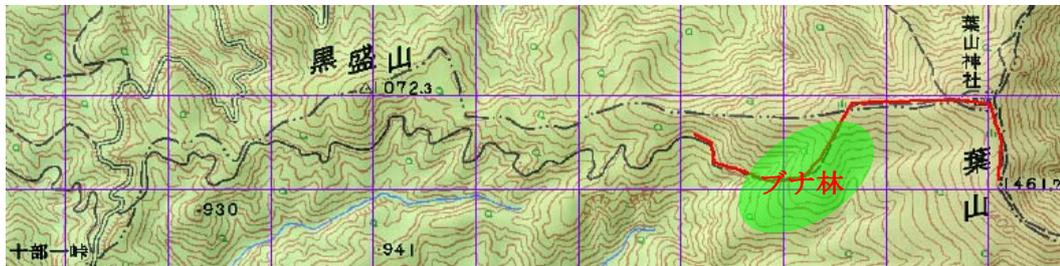
57) 葉山 (村山)

山形県には葉山が3つある。長井、上山、そして村山地方。ここで紹介するのは村山の葉山。葉山 (端山、羽山など) は里山である場合が多いが、この葉山は1400m 越えて数ある葉山の標高はもっとも高い。

葉山への登山コースは主に使われているのが3コースある。どれも美しいブナ林が味わえるのが特徴だ。十部一峠からのコースはもっとも楽に山頂に立つことができる。林道の終点手前で車を降り歩き始めると、もう周囲は太いブナが散見される。沢を越えて急坂を登りきると緩い斜面に差し掛かる。それを待っていたかのように見事なブナ林となる。古老



葉山途中のブナ林



のような太いブナ、若いスラッとしたブナ、形の面白いブナ、コケと同化したブナなど見ていて飽きない。涼風が吹き抜けて、ブナの葉がざわめ

く。エゾハルゼミの鳴き声が一瞬止まって静寂をもたらす。再び、何ごともなかったかのように、森は鳴き声に満たされる。山頂から西に伸びる尾根にたどりつくまで、ブナ林は続くが、見応えのあるブナ林はこの辺だろう。

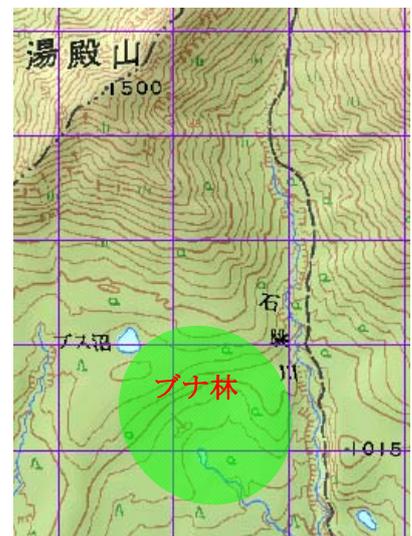
コースタイム：林道終点(1時間20分)葉山神社(20分)山頂(1時間30分)林道終点

58) 湯殿山

月山・湯殿山・羽黒山の出羽三山は信仰の山であり、どの山も宗教色の強い山だ。しかし湯殿山だけは、その中腹にある御神体が信仰の対象であり、山そのものには全く宗教臭は感じられない。二万五千の地図の湯殿山(1500m)は、国土地理院が名付けたという説もある。

湯殿山への登山道はない。山頂に立てるのは積雪期のみである。その南側には美しいブナ林が広がっている。登山道もないので残雪期に訪れることになる。積雪期は自由に歩けるので楽しい。近年、スノーシューという西洋かんじきが出回るようになると、誰でもが雪の上を容易に歩けるようになった。

私は山スキーで湯殿山山頂から滑り降りて、斜面が緩くなったら石跳川へと向かって滑る。無木立の斜面からブナ林に滑り込むと、太い見事なブナが現われた。早速、滑りを中断して、コーヒータイムとした。ブナは乾いた白い木肌を見せている。林の中は風も弱まり暖かい太陽を浴びて気持ちがいい。仲間の顔も穏やかになって、ブナの森を楽しんでいる。結局、もう一杯コーヒーをお代わりして長居してしまった。



石跳川のブナ

コースタイム：姥ヶ岳(30分)コル(1時間)山頂(1時間)ブナ林(30分)月山ビジターセンター(以上スキーによる)

シナノキ (*Tilia japonica* シナノキ科シナノキ属)

ブナ林に植生する落葉高木で日本特産種。

葉は互生で葉柄が長く陽樹の特徴を備える。葉の形はハート型で先端は長く尖り、葉の基部もハート型に窪む。葉縁には鋭い鋸歯がある。葉脈は掌状脈が鋸歯部まで走る。幹の色は暗灰色で樹皮は縦に細かく裂け、特徴のある幹相となる。

花は集散花序で葉腋から垂れ下がる。花柄の中間部には総苞葉と呼ばれる靴べら状の器官があり、これが開花中のシナノキの独特の景観をかもし出す。小花は外側からがく片、細長い花弁、花弁状の仮雄しべが各5個あり5倍数性を示す。それぞれの器官は直接重ならないように回転して配置される。その内側では多数の雄しべが中央の1個の雌しべを囲む。花色は花序全体が淡い黄緑色で、濃緑色の葉群に混在して樹全体がグラデーション模様を形成する。



吾妻・安達太良山域でも重要なブナ-ミズナラ林の構成樹である。陽樹性が強いためか植生頻度は高くないが、大木の独立樹が点在する。開花中のシナノキの姿を観察できるのは、林中では難しく、林縁にあるシナノキに遭遇したときにその恩恵に恵まれる。樹の花に興味を持ち始めた頃に、偶然、開花期のシナノキに出くわし、その花は忘れられない存在となったが、果実については興味が向くことはなかった。昨年(2007年)の冬に、観察会の下見に高山に出かけた際に、雪上に総苞葉を付けたシナノキの黒い果実を見つけた。総苞葉の寄木細工のようなセピア色のモザイク模様に温かみのある美しさを感じた。なお、似たような形態をしているオオバボダイジュの果実には5個の稜があるので区別できる。

シナノキの花はレモンに似た香りがあり、蜂蜜の蜜源植物として有名だが、加えて昔より生活用品から文化用品まで幅広い木工品の材料として利用されており日本人の文化の香りが強い樹木ともいえる。

ミツバオウレン (*Coptis trifolia* キンボウゲ科オウレン属)

亜高山の針葉樹林や高山の雪田の周辺部に生える多年草。雪解けと同時に開花する高山植物である。

葉は根生葉のみで、長い柄があり、3枚の小葉から成る3出掌状複葉である。小葉の表面は照りがあり、周辺には鋭い鋸歯がある。

花は頂生花序で、根茎から花柄を伸ばし、白と黄色と黄緑色で構成される花を咲かせる。白い花弁に見えるものはがく片で、花弁はその内側にある黄色いものである。中央に黄緑色の雌しべがあり、その周辺を多数の雄しべが囲んでいる。花弁は退化し、先端の黄色い杯状の部分とこれを支える基部の細い部分に機能分化しており、前者は舷部(げんぶ)、後者は爪部(そうぶ)と呼ばれる。舷部は蜜腺が発達している。がく片、花弁、雌しべはそれぞれ5個あることから5倍数性の花であることが分かる。遠目では白い大きながく片が目立つのみだが、近づくと花の姿はなかなか賑わいがあり、その意外性が楽しい。



吾妻・安達太良連峰に植生するオウレン属にはミツバオウレンに加えバイカオウレン(*C. quinquefolia*)とオウレン(キクバオウレン:*C. japonica*)の3種類がある。このうちオウレンのみが雌雄異株であり、バイカオウレンは吾妻連峰が北限である。自生地の高標高はミツバ、バイカ、キクバの順に低くなる。

ミツバオウレンは、夏の吾妻連峰の稜線上の主といった存在であり、太陽に最も近い場所に生育するためか陽気で明るい印象がある。2005年の西吾妻誘導ロープ補修ボランティアの際に、稜線も間近となった辺りで見慣れぬ小さな花が咲いているのに気づいた。葉の形態はミツバオウレンに酷似しているが花の感じが異なるのである。それは「先祖がえり」によりがく片が緑色を取り戻した個体であった。

第98回自然観察会案内：西吾妻誘導ロープ補修ボランティア

日時：7月6日（日）8時30分～16時30分（雨天時7月13日に順延）

「平成20年度公益信託自然保護ボランティアファンド助成事業」

- * 本事業は公益信託自然保護ボランティアファンドの助成により実施いたします。また、ボランティア作業は広範囲となることから、2コースに分けて実施いたします。
- * 内容はロープ補修と高山植物の変化状況観察です。なお1名あたり3kg程度の荷上げ＝アルミロープスチック・ロープをお願いします。

【Aコース】西大巔～西吾妻避難小屋間の誘導ロープの補修

1. 集合場所：①福島方面＝四季の里正面入口駐車場 ②郡山方面＝裏磐梯ビジターセンター駐車場
2. 集合時間：①四季の里＝6時30分 ②裏磐梯ビジターセンター＝7時40分
3. 参加定員：8名限定（作業実施責任者＝高橋淳一含む）
4. 日程：6.30（四季の里P）→7.40（ビジターセンター）→8.00（グランデコススキー場）→8.30（ゴンドラ乗場）→9.00（ゴンドラ山頂駅）→11.00（西大巔）→11.20（水場周辺：作業場所）～13.30（作業・昼食）→14.00（西大巔）→15.30（ゴンドラ山頂駅）→16.00（ゴンドラ乗場）→16.30（ビジターセンター）→17.40（四季の里P）

【Bコース】梵天岩～西吾妻避難小屋間の誘導ロープの補修

1. 集合場所：福島県農業総合センター果樹研究所（旧果樹試験場）
2. 集合時間：6時30分
3. 参加定員：8名限定（作業実施責任者＝佐藤守含む）
4. 日程：6.30（果樹研究所）→8.00（天元台スキー場ゴンドラ乗場）→9.00（リフト終点）→11.00（梵天岩）→11.10（天狗岩）～13.30（西吾妻避難小屋）→15.50（リフト終点）→16.20（天元台スキー場ゴンドラ乗場）→17.50（果樹研究所）

準備品：登山靴（長靴）、雨具、手袋（作業用）、昼食、水筒、筆記用具、嗜好品、その他（あればハンマー・ペンチ）

参加費：保険代も含め無料です

申込み：7月5日（土）まで高橋（024-593-1990 携帯：080-3320-1804）、佐藤（024-593-0188）へ

***参加コースについては、事務局より、変更をお願いする場合があります。**

第99回自然観察会案内：吾妻谷地平湿原観察会と清掃登山

日時：2008年8月24日（日）7:00～15:30

集合場所：四季の里正面入口駐車場 集合時間：7:00 参加定員：20名

内容：吾妻谷地平の湿原観察とゴミなどが懸念される谷地平の清掃登山。登山でも往復4時間強を要する健脚向きです。

準備品：昼食、登山靴または長靴、帽子、軍手、雨具、筆記用具、ビニールゴミ袋、（ルーペ・双眼鏡・各種図鑑）

参加費：保険代300円 申し込み：8月23日（土）

*なお、予定は現地の気象状況により変更する場合がありますので、予めご了解願います。

参加申込先：高橋淳一（024-593-1990・080-3320-1804）または佐藤守（024-593-0188）へ電話またはメールにてお願いします（電話申込は午後7時～9時までお願いします）。

第100回参加者（前日泊）募集案内

高山観察会が10月19日開催されます、第100回記念として土湯峠の赤湯温泉で前夜祭を行う予定です、予約の都合で前夜祭参加希望される方は8月30日まで申し込みをお願いいたします。

尚、当日のみ参加の方は観察会の2日前まで申し込み可能です。

新年度の会費納入をお願いします：郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

「高山」高山の原生林を守る会会報 第65号 2008年6月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP：<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>

代表連絡先：高橋淳一 Phone 024-593-1990（夜間7時～9時）

郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費（500円）を添えて上記まで

編集：佐藤・奥田・鈴木